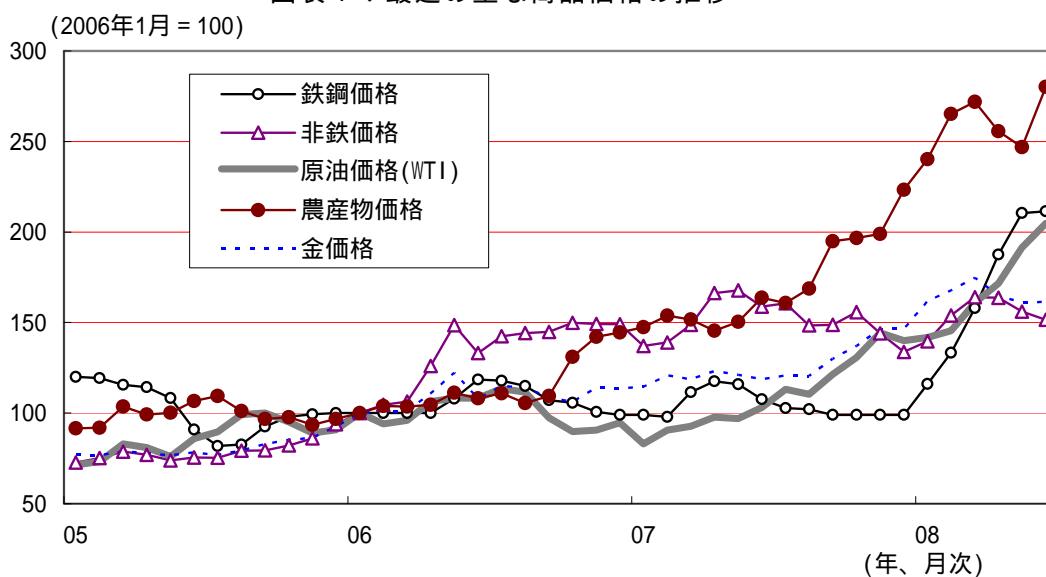


### 農産物価格の上昇について

#### Q 1 . 農産物の価格が上昇しているようですね？

- ・ 長期的にみると、農産物の価格は、石油や金属といった資源・原材料価格、あるいは消費者物価や工業製品の価格に比べて、上昇テンポが緩やかでした。2007 年の価格水準（ドル建て）を 1960 年時点と比べてみると、原油が 25 倍、銅が 10 倍、亜鉛が 13 倍になっています。また、米国の消費者物価は 7 倍、工業製品全般の価格動向を表す生産者物価は 4.8 倍です。これに対して、農産物（トウモロコシ、小麦、大豆の平均）の価格は 3.6 倍にとどまっています。
- ・ ところが、2006 年後半から農産物価格の上昇が始まり、2007 年後半以降は価格上昇が大幅になっています（図表 1）。石油や金属に続いて、いよいよ農産物価格の上昇が始まったのだという見方が出ています。

図表 1 . 最近の主な商品価格の推移



(注) 農産物は小麦、大豆、コーン。鉄鋼は熱延鋼板。  
非鉄価格はLME指数（銅、アルミ、亜鉛、ニッケル、錫、鉛が含まれる）  
(出所) Bloomberg

#### Q 2 . なぜ、農産物価格は上昇しているのですか？

- ・ いくつかの理由が考えられます。まず、それまでの農産物価格の上昇が緩やかであったことです。農産物価格が他の商品に比べて相対的に割安にみえたため、投機的な関心を集めるようになった可能性があります。
- ・ また、米国のサブプライムローン問題の拡大や利下げによって、ドル安が進んだこと

も一因とされています。トウモロコシ、小麦、大豆などは世界各国で消費されています。ドル安になってもドル建ての価格が変わらなければ自国通貨建ての商品価格が割安になり、そうした国の需要を押し上げる要因になります。このため、ドル安時にドル建ての商品価格に上昇圧力がかかりやすいというのは、農産物の場合も石油や金属と同様です。株式相場が軟調なために代替資産への投資を模索する動きが根強いことも、農産物が投資対象として注目される一因かもしれません。

- もっとも、投資先として有望だという思惑が生じてくる背景には、農産物の需給が引き締まってきていることがあります。まず、需要を増加させる三つの大きな要因があります。第1に、世界人口の増加によって主食など基礎的な食料の消費量が増加しています。欧米、西南アジア、アフリカなどを中心に主食になっている小麦についてみると、パキスタン、エチオピア、エジプトなど人口増加ペースの速い国が需要の増加を牽引しています（図表2）。
- 第2に、新興国の経済発展によって、新興国の食が高度化していることも、油脂や飼料向けの農産物需要を押し上げる要因です。トウモロコシは最大の飼料用農産物であり、食肉需要が増加している中国の需要が大幅に増加しています。大豆は植物油の主原料の一つであるとともに高たんぱく質の大豆粕は飼料として利用されます。大豆の生産大国であるアルゼンチンは、大豆を使って大豆粕や大豆油を製造して輸出しています（図表2）。
- 第3に、地球環境問題への対応策の一環として、バイオ燃料を自動車燃料等に使用する動きが広がったことも農産物の需要を押し上げました。特に米国では大量のトウモロコシがエタノールの生産に利用されるようになってきています（図表2）。また欧州では菜種油を中心にバイオディーゼルの利用が進んでいます。

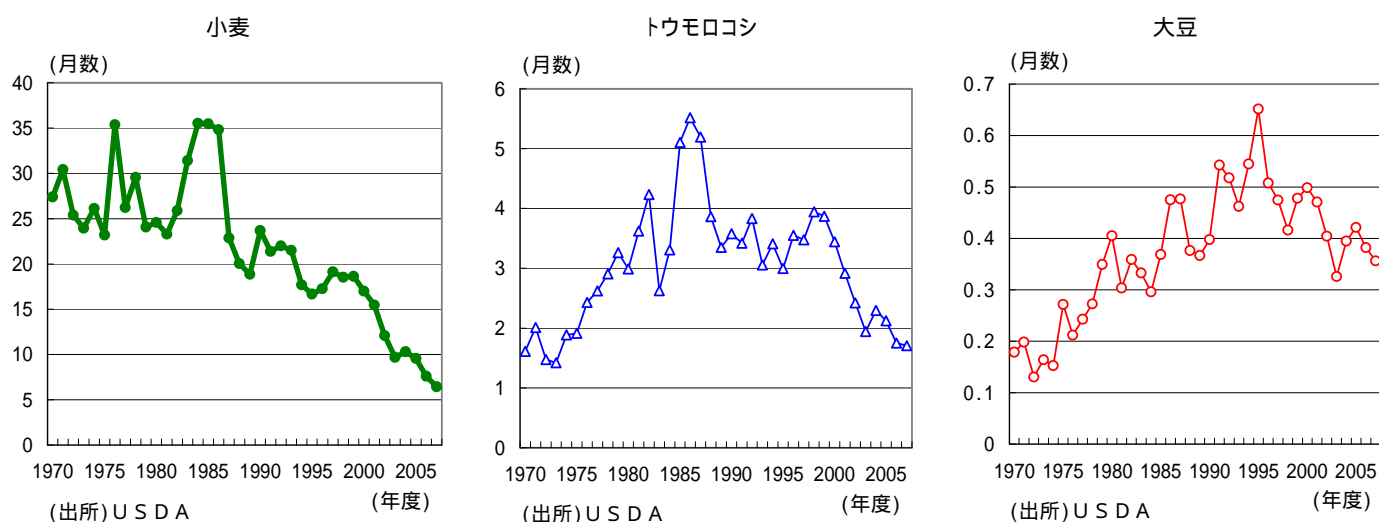
図表2．小麦・トウモロコシ・大豆の消費増加上位国

小麦		トウモロコシ		大豆	
世界需要	619,704	世界需要	775,136	世界需要	233,520
(02-07年増加幅)		(02-07年増加幅)		(02-07年増加幅)	
世界計	15,545	世界計	148,541	世界計	42,059
パキスタン	4,020	米国	66,218	アルゼンチン	13,572
エチオピア	3,268	中国	23,100	中国	12,760
エジプト	3,050	メキシコ	7,300	ブラジル	6,026
ウズベキスタン	1,896	ブラジル	6,700	インド	5,197
セルビア	1,750	インド	4,500	米国	5,111
インド	1,556	セルビア	4,400	エジプト	858
インドネシア	1,259	EU	4,224	パラグアイ	765

(注)世界需要量は2007年度の数値。単位は千トン  
(出所)USDA

- ・ 供給面に関していえば、耕作面積や単位面積あたりの収穫量を急に増やすことはできないという従来からの問題が続いています。そうした問題を抱えながらも、品種改良や肥料の活用、灌漑の敷設などにより、中長期的に農業生産は拡大してきました。また、農産物は天気や気候の変化によって作柄が大きな影響を受けますが、消費国は備蓄を保有したり、輸入先を多様化したりすることで対応してきました。
- ・ しかし、近年は、小麦を中心に農地面積の拡大に限界が指摘され、単位面積あたりの収穫量も伸びが鈍化する傾向がみられています。地球温暖化に伴う気候変動も供給を不安定化させる要因として懸念されています。
- ・ そうした中で、トウモロコシ、小麦、大豆の在庫率は低下傾向で推移しており、需給が引き締まっているとの観測を強める材料になっています（図表3）。

図表3．世界における小麦・トウモロコシ・大豆の在庫率（在庫÷需要量）



Q3．農産物価格が上昇すると、日本経済にはどのような影響がありますか？

- ・ 2007年の日本の貿易データを見ると、原材料や素材の輸入のうち、石油など鉱物燃料の輸入が圧倒的に大きな比重を占めています。鉱物燃料の輸入が20兆円であるのに対して、農産物等の輸入は6兆円にとどまっています。しかし、家計への影響について考えると、農産物価格の上昇は軽視できません。
- ・ 家計の消費支出のうち、食料関係費は27兆円と、ガソリンや灯油などの石油・石炭製品、電力・ガス、交通・運送といった鉱物燃料と関連の深い項目への支出金額の総計（28兆円）に匹敵する額です（図表4）。農産物価格の上昇が続くと、消費者マインドや景気への悪影響が懸念されます。

図表4 . 日本の家計の消費 (2006年)

(単位:兆円)

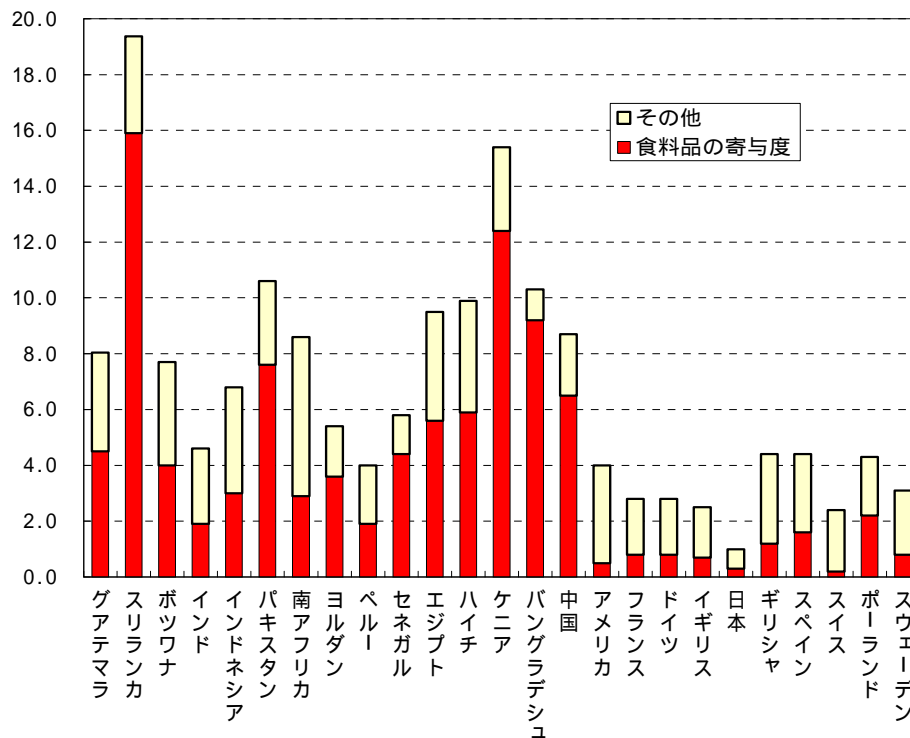
<b>家計最終消費全体</b>	<b>280</b>
<b>食料関係費</b>	<b>27</b>
石油・石炭製品	6
電力・ガス等	7
交通・運送	15

(出所)経済産業省「簡易産業連関表」

Q4 . 世界経済への影響はどうでしょうか？

- ・ 世界各国に眼を転じると、所得水準が低い国ほど、食料品への支出が消費支出全体に占める割合が高くなる傾向があります。所得水準が高い国に需要が集中する金属や石油と違って、農産物価格の上昇は貧しい国への影響が大きくなる傾向があるといえます(図表5)。農産物を自給できずに輸入に頼らざるを得ない国々では、国民の食料を得るための外貨不足も懸念されます。

(%) 図表5 . 各国の消費者物価上昇率



(注)2008年2月時点  
(出所)OECD-FAO "Agricultural Outlook"

- ・ 先進国や新興国においても、食料価格の上昇は低所得層への影響が大きいとみられます。食料価格の高騰は、国際社会の直面する大きな課題として捉えられるようになっていきます。

お問合せ先 調査部 芥田 知至

E-mail : [tomomichi.akuta@murc.jp](mailto:tomomichi.akuta@murc.jp)

本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。